

公設・公営の周桑病院で！

(日本共産党西条市議団)

**問** 周桑病院は、平成21年度決算で、一般会計から、

7.8億円前後の持ち出しが想定されるが、今後、医師が増えれば医業収益が大幅に改善される。

医師減らしという国の大失政による赤字が最大原因であり、国に対して交付税の増額を要求すべきである。

70年間、市民の命綱として、存続し続けている、かけがえのない周桑病院を、今までどおりの公設公営の市民病院として財政援助を続けるべきが、合併後の新西条市の責任ある姿だと思つが、どう考えるか。



市立周桑病院

**答**

深刻な医師不足問題をはじめ、医療を取り巻く環境の悪化、医療崩壊現象の発生は、地域医療の根幹を揺るがす事態を招いており、再三、国に対して施策の是正を求めてきており、今後も続けていきたい。

特に、社会問題化している医師不足問題について、国はようやく医師の増員へと動き出したが、この解消には長い時間を要するもので、周桑病院の医師不足は限界にあり、現状の非効率な経営を続けることはできない状況にある。

西条市医療基本構想策定委員会の答申は、深刻な医師不足を解消し、大学医局の協力を得るためにも、当面、西条市が継続関与して経営基盤を強化し、経営の健全化を図ることが不可欠であり、そのためには市立病院としての存続を図ることが望ましく、行政等が出資して医療法人を立ち上げ、医師を理事長とし、運営を委託する指定管理者とすることが、実現性、安全性、信頼性のある解決策であると結論づけられたものである。

この答申を真しに受け止め、この具現化に取り組むことが、地域の拠点病院としての機能を

有し、経営的にも安定自立し得る病院の構築につながるものと考えている。

西条高校定時制課程の存続について問う！

(無会派)

**問**

県立高等学校再編整備計画によると、西条高校定時制課程が、平成24年に生徒募集停止対象となっている。

同校定時制課程が募集停止、閉校となれば、市内に定時制課程を有する高校が存在しなくなり、子どもたちの大切な学習の場が失われることになるが、このことについて市の対応を問う。

**答**

平成20年8月に愛媛県教育委員会から出された愛媛県立学校再編整備計画によると、定時制課程の普通科は、入学生が10名未満の状況が2年続き、その後も増える見込みがない場合には募集停止を行うこととされている。

西条高校定時制がその要件を満たすこととなった場合には、平成24年に募集停止を行うこととなり、この計画どおりに進めば、東予地区4市の中で定時



西条高校

制課程のない市が西条市のみとなる。

現在、西条高校定時制在籍者41名中37名が市内中学校出身者であり、勤労青年や進路変更生徒、年配者の学び直しなど多様な生徒が在籍している。このような多様なニーズにこたえることができる勉学の場として定時制課程はぜひとも必要であると考ええる。

今後、小・中学校でのより適切な進路指導のもと、高等学校とのより緊密な連携の中で、定時制存続希望について意思表示や働きかけを行っていきたい。

副市長の任命同意

副市長に、大越康史氏(国土交通省航空局空港部計画課空港計画企画官)を任命することに同意しました。

来訪 西条

3月定例会閉会以降、行政視察のため、西条市を訪問した市議会と視察項目は、次のとおりです。

- ◇5月25日 北海道苫小牧市議会
- ・食品加工流通コンピナート構想について

請願

6月定例会で審議した請願の審議状況は、次のとおりです。

【継続審査】

- ・経済・金融危機のもとで「消費税の大増税計画に反対する意見書」の提出を求める請願
- ・中小業者の家族従業者の人權保障のため、「所得税法第56条の廃止を求める意見書」の提出を求める請願